

息吹き返す大動脈

河北新報

3月23日（水）
河北新報社
〒950-8503 盛岡市大宮1-1-1
電話 022-231-1447
FAX 022-231-1448
Eメール hshb@hshb.co.jp
URL www.hshb.co.jp



東北道大型車の制限解除

東北新幹線 盛岡以北運転

東北道は、震災後、大宮から盛岡までの区間で、大型車の通行が制限されていた。しかし、3月23日より、盛岡以北の区間で、大型車の通行が制限解除された。これは、東北道の交通状況が徐々に正常化していることを示している。

全6基外部電源接続

福島第1 3・4号機 中央制御室回復へ



福島第1原子力発電所では、3月23日、3号機と4号機の中央制御室が外部電源に接続された。これは、発電所の復旧作業における重要な一歩であり、今後の運転再開に向けた準備が進んでいることを示している。

東北道は、震災後、大宮から盛岡までの区間で、大型車の通行が制限されていた。しかし、3月23日より、盛岡以北の区間で、大型車の通行が制限解除された。これは、東北道の交通状況が徐々に正常化していることを示している。

東日本大震災関連記事
死者数
宮城 5507人
岩手 2773人
福島 762人
青森 3人
山形 1人
全国 9099人
全国の不明者数 13786人
23日現在（各県警など調べ）

日本製紙「復旧急ぐ」
石巻・岩沼工場に被害
日本製紙は、3月23日、石巻・岩沼工場の復旧作業を進めている。被災した設備の修理と、生産ラインの再開に向けて、緊急に取り組んでいる。

おこたわり
東北道は、震災後、大宮から盛岡までの区間で、大型車の通行が制限されていた。しかし、3月23日より、盛岡以北の区間で、大型車の通行が制限解除された。これは、東北道の交通状況が徐々に正常化していることを示している。

日本製紙「復旧急ぐ」
石巻・岩沼工場に被害
日本製紙は、3月23日、石巻・岩沼工場の復旧作業を進めている。被災した設備の修理と、生産ラインの再開に向けて、緊急に取り組んでいる。

日本製紙「復旧急ぐ」
石巻・岩沼工場に被害
日本製紙は、3月23日、石巻・岩沼工場の復旧作業を進めている。被災した設備の修理と、生産ラインの再開に向けて、緊急に取り組んでいる。

犠牲者送る涙と花

宮城県内の遺体取り扱い方針

市町村	火葬土葬	方針
気仙沼市	火葬	4月6日まで100体を火葬見込みだが200体程度残る
東松島市	土葬	22日から市営墓地（旧クリンセンター跡地）に土葬を開始
南三陸町	火葬（一部）	現在、釜米の火葬場にも搬入・町内最大火葬場として検討中
石巻市	火葬土葬	土葬の場として3カ所の整備開始 1. 市営北山墓地（2500体可能） 2. 盛岡市船越字の神宮公園跡地 3. 河北町上品山牧場（500体程度）
女川町	土葬（一部）	火葬希望者を除き土葬（無の神公園）
多賀城市	火葬	18日まで約140体を火葬（身元不明は約3分の2）
七ヶ浜町	火葬	18日まで42体を火葬（うち身元不明者は7体）
仙台市	火葬土葬	仙台市内で発見された身元不明の遺体を土葬（宮城県内）
名取市	火葬土葬	身元不明者は土葬も検討（市内の土地を検討中）
沼津市	火葬	身元不明の遺体も含め火葬で対応
沼津市	火葬土葬	土葬用墓地として整備を開始。互利町・順吉寺（200体程度）
山元町	火葬土葬	土葬用墓地として3カ所の整備開始 1. 山元町高瀬・金沢寺（100体程度） 2. 山元町高瀬・金沢寺（200体程度） 3. 山元町高瀬・金沢寺（200体程度）



火葬限界 5市4町が土葬方針

宮城県内では、震災後の火災犠牲者が増え、火葬の需要が急増している。しかし、火葬場の容量が限界に達しているため、5市4町が土葬の方針を打ち出した。これは、被災者の尊厳を尊重し、迅速な処置を行うための措置である。

宮城県内では、震災後の火災犠牲者が増え、火葬の需要が急増している。しかし、火葬場の容量が限界に達しているため、5市4町が土葬の方針を打ち出した。これは、被災者の尊厳を尊重し、迅速な処置を行うための措置である。

石巻市蛇田中 住所 石巻市蛇田中20の1

避難者数 680人（21日午後5時現在）
避難地区 石巻市の東部、新東部、新南、新北、大門町など

気仙沼市民会館 住所 気仙沼市笹が陣4の2

避難者数 400人（22日午前10時現在）
避難地区 気仙沼市の幸町、内の郷、仲町、井天町、川口町など

避難所 いま



被災者自ら炊き出し
石巻市蛇田中地区の避難所では、被災者たちが自ら炊き出しを行い、食事をとっている。これは、被災者の自立と、コミュニティの形成を促進するための取り組みである。

不自由な生活に一息



被災者自ら炊き出し
石巻市蛇田中地区の避難所では、被災者たちが自ら炊き出しを行い、食事をとっている。これは、被災者の自立と、コミュニティの形成を促進するための取り組みである。